

[埠頭のストア]

失われゆく山下埠頭の倉庫群「ストア [store]」の風景を転用し、横浜の新たな一面をつくるきっかけとして、多様な人々が集まる場「ストア [stoa]」を計画する。

埠頭には、多量の「物の流れ」を受け止める、大らかな余白を持った空間があった。そこは、運びこまれた物によって、それぞれ異なる豊かな表情で満たされていた。その質とポテンシャルを転用することで人の場を形成していく。

三つの異なる環境を持つ大らかな余白が積み上がり、横浜を巡る「人の流れ」を受け止める。倉庫特有のストラクチャーが人々の居場所を作っていく。集まった人や物が交錯し、その場・その時だけの光景が溢れ、新たな魅力が街からここへ、ここから街へ運ばれていくだろう。



■隠れた文脈／山下埠頭



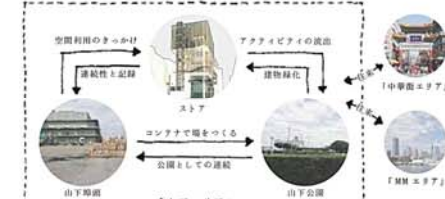
大橋橋より南を眺めてみると巨大な倉庫が建ち並ぶ、見慣れた横浜とは少し異なった風景が広がっている。山下公園と埠頭を隔てるフェンスは物理的な近さ、そして精神的な遠さを感じさせるものだった。

■失われゆく埠頭



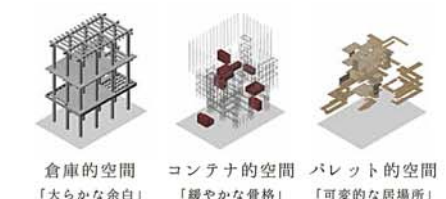
山下埠頭は利用率の低下により、ハーバーリゾート空間への再開発の計画が進行している。現行の計画では今までの文脈は無視され、横浜の歴史や文化の発展を担った空間が消えようとしている。

■埠頭を生かす全体計画



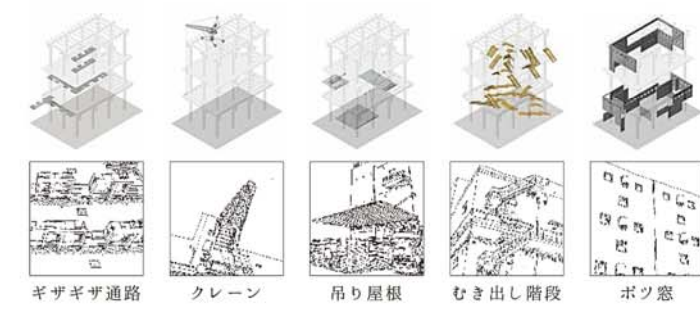
山下埠頭・山下公園・本数地の三つを関連づけ、人が流れ、回避できるような全体計画を考える。緑やコンテナを活動の軸としてイベントや遊びが展開されるエリアとして山下地区をブランディングすることで、みなとみらいや中華街に並ぶ、横浜の新たな一面を創る。

■埠頭空間の再構成

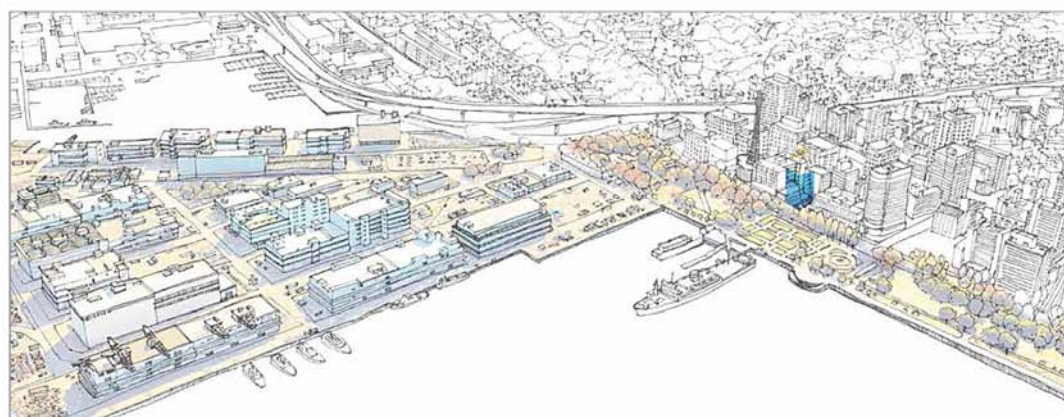
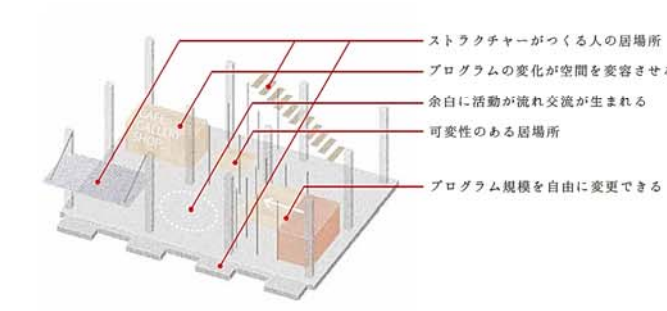


ストアは3つの埠頭の要素によって構成される。積み上げられた、倉庫の空間が、層ごとに異なる環境をつくる。その中に、プログラムの中心となるコンテナ的空間。主体的に場をつくることのできるパレットの空間が存在する。3つの組み合わせが人々を受け止める。

■特有なストラクチャー



■交流する人々の居場所、更新される活動



コンテナの空間やパレットの空間などの居場所は活動やサービスの内容によって、大きさを変更することができる。それにより、ストア内のプログラムは固定されことなく、時の流れや人の流れと共に絶えず変化していく。各々の居場所の活動は大らかな余白に流れ出す。倉庫の特有のストラクチャーが流れて先々の受け皿となる。余白内では、多様な活動を環境との組み合わせにより、昨日とは違う。フロアごとにも違う。その瞬間限りの多様な光景がストアに溢れている。